

山梨予備校 令和三年度 入学式 校長あいさつ

木々の青葉が目にはさわやかに感じられる季節となりました。本日ここに、山梨予備校令和三年度入学式を実施できますことはたいへん喜ばしく、皆様方には深く感謝申し上げます。山梨予備校は長年にわたり数多くの入学生を迎え入れ、大学受験を目指す若者の、日々の学習の支援に努めて参りました。本日は皆さん、本校によるこそ入学してくださいました。教職員一同、心から歓迎いたします。

皆さんは、できれば予備校には入学したくなかった、というのが本音かもしれません。保護者に経済的負担をおかけします。望み通りの成果が得られるだろうかという不安もあるでしょう。そんな皆さんに向かってこの言葉は飲み込んでしまうのですが、私は本心では「入学おめでとう！」と申し上げたいところです。

それは、皆さんがこれまで過ごした小学校から高校まで、そしてやがて過ごすことになる大学とは全く違う時間が予備校にはあるからです。後で振り返って初めて気づくのですが、予備校で過ごす時間は皆さんの人生における、かけがえのない時間に必ずなる、と思います。人は挫折した経験を経て成長する、これも確かに真実でしょうが、そういうことをここで申し上げたいではありません。

私は四十四年前、某予備校に入学しました。自分の人生の出発点はその予備校時代にあると思っています。六十歳を越えた今になってもこの思いは変わりません。予備校ではクラス担任の先生が丁寧に相談や指導にあたりますが、一日一日を生きていく姿勢は、自らの人生に責任をもつ自分自身で決めていくのです。

皆さんは来春の合格を目指します。人生の折々の具体的目標は日々努力を積み重ねる先に実現するのですが、この日々の積み重ねこそが人生の本番、人生の全てです。目先の結果に翻弄されない強い自分を信じて一歩ずつ、ただひたすら一歩ずつ歩み続ける覚悟、この覚悟が大人への道に通じているのだと思います。

受験勉強はすぐ忘れ、役に立たないと言われることもあります。しかし私たちは知識だけ使って一面的・表面的に生きているではありません。自分の経験全てによって生きています。受験勉強の大切さを信じてください。たとえ暗記した内容は忘れても一度馴染んだその世界は心の広がりとして存在し続けます。

私は高校で世界史の授業を担当してきました。五十歳の時、数学の免許を取得し、世界史と数学の授業担当の掛け持ちを狙いましたが、管理職や県教委事務局勤務が続き、結局実現できませんでした。皆さんから質問を受けたりすると、思わず張り切ってしまうそうです。どんな形でも皆さんを励ましたいと思います。

結びに、山梨予備校に入学された皆さんの、今日から始まるこれからの毎日が、明るく、楽しく、充実したものとなること、そして皆さんの人生におけるかけがえのない時間となることを心からお祈り申し上げ、私からのあいさつとします。

令和三年四月十六日

山梨予備校 校長 斉木 邦彦